

# 飲み屋街の印象評価に関する研究

## — キャプション評価での4対象地比較 —

日大生産工(院) ○野津 昂平  
日大生産工 山岸 輝樹

### 1. はじめに

元闇市と呼ばれる昔ながらの飲み屋街は少なくなっている。飲み屋街の中には、昔からほとんど姿形が変わっていない飲み屋街や、形を変えリニューアルを繰り返す飲み屋街などさまざま存在する。姿形がほとんど変わらない昔ながらのディープな印象を持つ飲み屋街には、良い印象の他、悪い印象も多数存在する。しかしそのような飲み屋街を建て直すとなると、ディープな印象が失われることを惜しむ声が存在する。また、飲み屋街の評価は一般的に良いと思われるものだけでは難しく、要素が多数存在する。

本研究では昔ながらの飲み屋街を維持するため、評価される飲み屋街を作るためには何が重要点になるのか、多数ある要素から、4つの飲み屋街の景の比較によって明らかにする。

### 2. 研究方法

#### 2-1. 研究の流れおよび対象敷地

研究の流れを図1に示す。対象飲み屋街は、①闇市から発展し、再開発が行われる中、昔から姿形がほとんど変わらない三軒茶屋の三角地帯 ②闇市から発展し、リニューアルが行われている吉祥寺のハモニカ横丁 ③新しく現代に建てられた昔ながらの飲み屋街をモデルに作られた渋谷の渋谷横丁 ④一般的に飲み屋が集まっている津田沼としている。4つの飲み屋街の位置関係を図2に示す。

#### 2-2. 調査方法

調査者は6名とし、2023年6~10月に4つの飲み屋街を対象に調査を行う。①天候は晴れで、夕暮れ以降の時間帯、実際に現地に行き、印象に残るものの写真の撮影。または360°カメラ映像で写真の撮影。②写真について、その景観の、「何の(要素)、どんなところが(特徴)、どう感じられる(印象)」を自由記述形式で具体的に明記してもらい、その景観の善し悪しを判断してもらおう。③景観画像の整理(表1)を行い、景の選定。④各飲み屋街の景観画像における要素の分析。⑤各4つの飲み屋街における景観マ

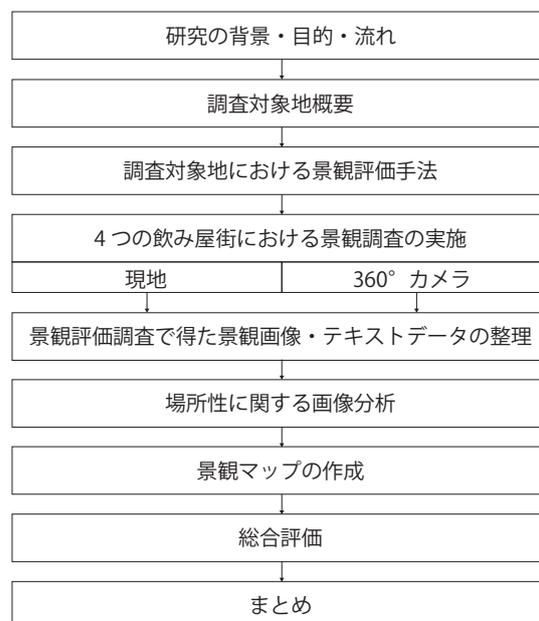


図1 研究の流れ

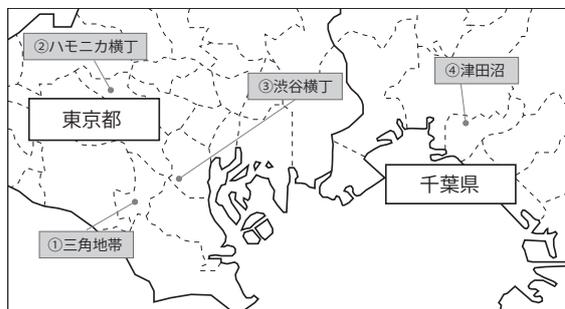


図2 飲み屋街位置関係

表1 景観画像の抽出・整理

過程	方法
抽出	調査によって、現地または360°カメラで抽出した画像628を評価。
整理	628の景観画像を、空間全体の景観画像、部分の景観画像、複数の部分画像からなる全体の画像に整理する。



図3 本研究で設定した10つの景

ップの作成。

### 3. 印象にもつ景の分析

#### 3-1. 景の分類

抽出した要素について、既往研究<sup>文1)</sup><sup>文2)</sup>に習い、図3に示した10の景を得る。その後、表2の景の分類項目表により、10の景に写真を分類する。

#### 3-2. 景観画像における各飲み屋街の特徴

飲み屋街の景の分類から構成された全要素を図4に示す。飲み屋街の印象を左右する割合が大きいのは看板、照明である。この2つの要素のほとんどが良いという評価を得ているため、飲み屋街の重要な要素であると考え。また、その他に分類された要素は善し悪しどちらにも評価されているため、その他に含まれる要素や割合によって、地域性や印象に差がつくと考える。

次に4つの飲み屋街ごとの構成要素を図5に示す。比較すると、街路景はどの飲み屋街でも印象に残っている。そして、三角地帯、渋谷横丁、津田沼では良い街路景という評価を多く得ている。しかし、ハモニカ横丁では悪いという評価も多く示されたが、これはリニューアルで現代との融合により自動販売機などが景観の邪魔をしているためであると考え。また、ハモニカ横丁では、閉まり切っている店とオープンで開かれた店とが混在しているため、悪い評価と示されていると考える。街路景の悪い印象

表2 景の分類項目表

景	要素
A. 街路景	街路
B. 複数要素	2つ以上の物の組み合わせ
C. 脇道細道景	脇道・細道
D. 建築物景	店舗・建物
E. 建築部材	窓・屋根・ドア・その他建築部材
F. 照明	提灯・ライト・その他あかり
G. 看板	看板・メニュー
H. 工作物	作り物・机・椅子・オブジェ
I. 壁	壁
J. その他	ゴミ・文字・人・自転車・排泄物 設備の一部・地面の一部・その他要素

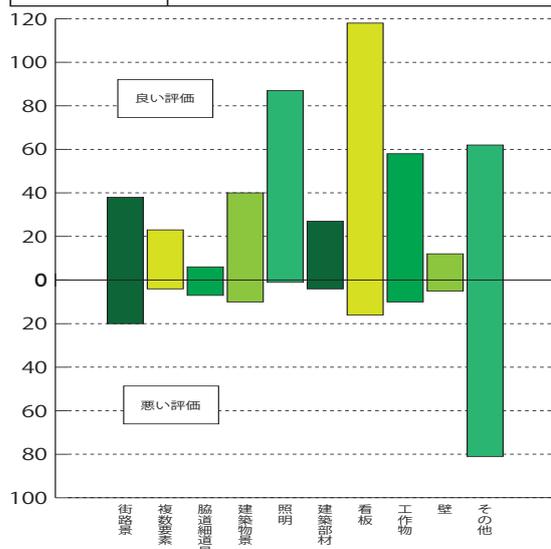


図4 全景の構成要素

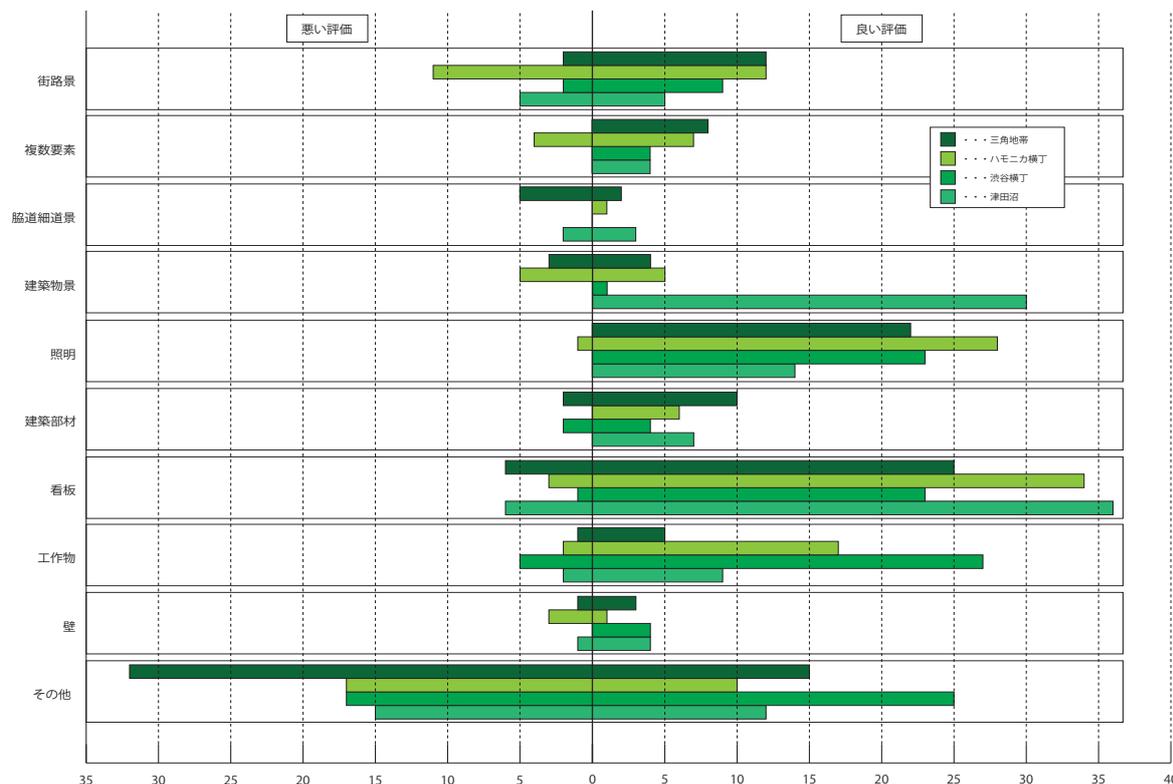


図5 4つの飲み屋街における種別構成要素

が三角地帯にあまり現れなかったのは、脇道細道景に景が分類されたためである。(図6)



図6 街路景の例

次に昔ながらの飲み屋街とした3つ飲み屋街に対し津田沼を比較すると、明らかに評価が建築物景と看板に偏っている。これは昔ながらの飲み屋街としてではなく、一つ一つの飲み屋の集まりから成り立つ飲み屋街であるからと考える。それに対し、一つ一つの店舗構えがあるが、建築物系に評価がほとんど出なかった渋谷横丁は、工作物が圧倒的に多くの印象を与えている。これは昔ながらな飲み屋街を模して作られた場所であるためであり、景観づくりには必要であると考え。

最後に三角地帯は、景の要素の割合がまばらになったため、姿形が変わらない飲み屋街には多数の要素が必要であると考え。

### 3-3.その他に分類された要素の関わり

一部の街路景を構成する要素を図7のように分解し、示す。左の街路景は渋谷横丁の、ある被験者が撮影した写真である。この景は多数の要素で構成されているが、今回選定した景では主に、看板、照明、その他から成り立ち、全てが良い印象として評価されている。右の写真は別の被験者が三角地帯を撮影した写真である。この景も主に、看板、照明、その他の要素で構成されているが、良い印象と悪い印象が混在している。この二つの街路景はその他に分類された要素が違うが、共に街路景は良いと評価されている。このことからその他の要素に分類されたもの同士の集まりだけでは、印象の善し悪しには大きく関係せず、地域性や昔ながらに直結する印象に関わってくるのではないかと考える。



図7 街路景とその他要素の関係

## 4. 印象にもつ場所性の記述

今回の印象評価によって分類された善し悪しを三角地帯、ハモニカ横丁、津田沼、渋谷横

丁の4つの飲み屋街それぞれ景観マップとして図8~11に示す。

三角地帯では、既存の通路に加え、人が入るのか疑問を持つような隙間の中や、店舗と店舗の何もない空間に印象を持つ人が多いため、飲み屋街全体に印象が持たれた。これは昔ながらの飲み屋街が現在にもほとんど姿形を変えていない理由の一つになるのではないかと考える。

ハモニカ横丁では、マップから現代化が進んでしまった自動販売機の通りには悪い印象が固まっている。また、三角地帯とは違い、狭い一見入りたくない隙間に印象を持つ人はほとんどいなかった為、一部の印象が持たれない場所があるとリニューアルを行う必要があるのではないかと考える。

津田沼では、マップから飲み屋街の全体ではなく一部に印象評価がされている。これは店舗の装飾などに印象が固まってしまう為、飲み屋街全体ではなく飲み屋単体への評価になっているのではないかと考える。

渋谷横丁では、マップをから人の通路にのみ印象評価が固まっている。これは作られた飲み屋街であり、工作物という景の要素であっても網や文字など多種多様な要素が存在するため評価が分散されていると考える。

## 5. まとめ

以上より、飲み屋街を評価する要素として、看板、照明の景が一番重要である。さらにその景に加え、街路景が重要であり、評価される飲み屋街の維持や作るためには、一部ではなく飲み屋街全体に印象を持たせる必要がある。ただ良い要素だけを組み合わせるのではなく、直接景の印象に大きく関わらない、その他の要素の配置によって、地域性や昔ながらの印象を持たせることができるという一説を得る。

今後の研究では、今回の結果に深みを持たせるために、人数や年齢層を増やし調査に当たる。また、その他の要素での印象の違いから、地域性や昔ながらとどのように関わることを探っていく。

## 参考文献

- 1) 中山晋吾, 中山真由美, 杉本昇士, 夏目欣昇: 商店街と問屋街の場所性の記述—名古屋と岐阜の4地区を対象として, 建築学会大会学術講演梗概集(東海)2021
- 2) 中山晋吾, 中山真由美, 夏目欣昇: 来訪者の景観評価による名古屋と岐阜の商店街と問屋街の場所性の記述, 日本建築学会東海支部研究報告集, 2020



図8 三角地帯の景観マップ



図9 ハモニカ横丁の景観マップ

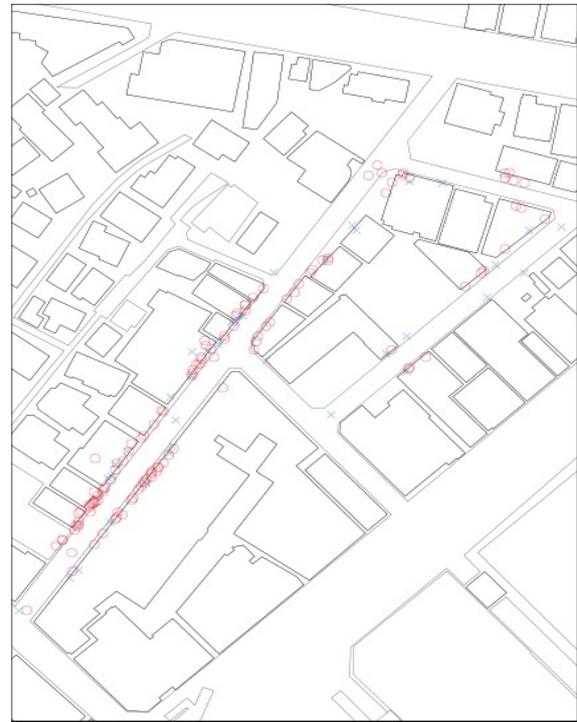


図10 津田沼の景観マップ

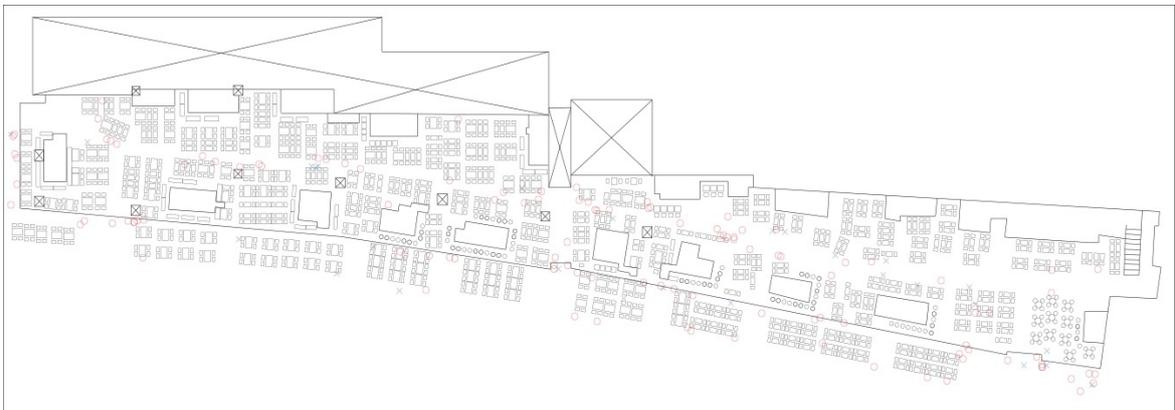


図11 渋谷横丁の景観マップ